208
12
682

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用

菊廼井草紙巻之十一

教訓亭主人 為永春水著

江戸戯作者

俚談

婦者も建部文を進ハ。その日吾家へ帰りつくれば女児ハ居らぬとて。なぐ一通の書置あり。さて八十年顔倒して射ゝきをゝ。その中ハ菊の井へ宛て文もあり。是ぞ正しく菊の井ぶ。子やうで生したる中るれぶと。義理を思ひて死を極めしハ

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682
ガラス使用

殺ひあるべうべと。まぼ猜しと女児が書おき。
つるくことびとふ殺身し。さらば測漸く流さけん。
遮莫まくハあらじ。彼の玉川のろちえ、あらば。
やがて臨爾く居るうも来れぞと。思へものうう
其やすくみ急ぎく彼所へ。順ハたゞ蓋脊
て四方も晴く。そまとうを思へ差ざふなけれど。
いと本ふなくもおのひつ。潛く其ふ殺然と。
復さとうしゞ心の狂ふく吾るべうまきひあり。

然ふとうしも此美麗川。今まと世ふ居るのも。
みるこれるまこの因縁なり。死生命あり如ぞれ。
態しむこのあるべ死や。しべその非命を嘆まと
のこと。一個嗟きあれくと。家ふうて菊の
井へ書遺しる一通ハ。已ゞ食の内ふいま。
まと救田殺身して。世よなき人とありとれバ。
今ゞ霄ハ殺も会佛して。冥土の悪趣をまぬゞ
あんと。齊花をくゞ向く看経し。その夜ハ明

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682
ガラス使用

ても絶の躰。父子の別離さもことと。おるひゆら
るく文こと仏いまゞ軽佩も あまくぬは門ゑ注やら
音あゝ家あり。さても正測と立いでゝ。これば是
なん採酒屋の。老生爲まえおりければ文やレ
ぞ雷ろよくごぞろと。マアくこちらへ ぞハイ此めん
下さりまし。さて〳〵仰ろとうまだれ。大きよ此ぶ
沙法いと〳〵まゝと義ハまバ おえさるも。ぞ
お願りなされまし〳〵と。マヅく仰ようこそで

ぞりまし。さてゝ。其邪小七どのも。この〳〵ば
氣狐ゆろこれまして。イヤ彩もいろくと歩ぞ
なりゝ氣をもこまゝと甲斐ゞどこ門て仕舎ぞ
ぞりまし 文へ。ゆろ。ぞ世ぞろ小三陽どのようと。
貴こゝゞ仰ろ斗ら。小七をも紅丸へよばよ。
侯立頼ゝ。ゆうゐ。ことる。乗安絢は中越され。ぶ弥
勤氣の許ゆ〳〵。マアく。まぞぐ大きゐ安旅ゞや
お君ゆも正く方く。さく辛苦〳〵と。新ゞやゞ。

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682
ガラス使用

そなたでも小七ハあつく志ハ忘れぬことゝ仰つゝ歎んで居ます〳〵うけ　まゝ「イヤ　もハ　おるたさまが長の年月　じしん　出羽　若とやとハ。なるゝ〳〵　濃子も及びやせぬ嫁ハ　えん　感心なおとゝろだゝ　毎度その度をヤ〳〵出たハ。　げんぢつ　女婢女　まで涙をこぼさぬものハこざりませぬ。モシ今日ハ仏のホヘうかなきうまゝ　文「アイ　今月ハちと用がありまく。　えんぢつ　たゞ「ハヲ　さそうでこざりませる。さて私が家で

まゝ〳〵ハ外のものでもこざりません。主人　ゆえ　ゆえ　ゆえ

百両ばかりのぜゝ。文ゝゝゝが前へおきゝく。ま「ゝやう
やさぶ。何とやらゝ。ゝ頼ゞゝゝ。ぜつけまして。お氣ぶ
陳ゝゝぜんじゃません。一旦結納の品。孫の文ゝ海
ゝゝゝれど文ゝゝ。後彼岸の夏ゞあ川ゝ年月
ゝゝゝゝゝれば。今あゝゝめゝ。此金子ハこゝろ
だゝりの結納とゝて。嫁ゝへ賜りゝ。ゝるゞぶ。何
岸で岸で法度具ゝも。ゝゝと當日のゝゝ物ゝゞ。お家
あるゝゝゝ料ゝて。何の幾日と日限をお極めゝて

ゝるゝゝゝ。ゝゝ房もゝつけまゝゝと。文「ゝゝゝ。ゝ
ゝゝ配。サテゝゝ。ゝ万ゝゝゝじゃけない。ゝるゞゞ。ゝ人
ゝゝ房ゞの。人ゝも。ゝゝれゝゝゝゝゝゝ。その
嫁が長ゝ一掉。ゝゝゝゝゝゝゝと世間の人の口
ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。今ゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あるぐござれバヤレ〳〵そなたぐあらつきまし〳〵こるんが
広縁をうんざゝて。お坐イあまへさま。浪人ものと
漫つく。〳〵こゝ度の料を送るとゝあやうとのくバ義
と。あるうるさうであらうゝと。ぞんじの外早
そく広縁に私ふあきやまつても。まづ〳〵安坊ひと
やし〳〵。さて其日暦でも。ぬけうされて下さり
やし〳〵。マア質後のよい日とヤスハて。なのであろ。く
そな〳〵。中陰の開くといの日ハどうでござうやまう

文「イヤ其方達何の関ふ。そさなハふんど戈ふるうこと。
そんるゝ来ル廿八日。宅ふ英反吉日じやゆまうゝ
何ゝを買ゝ調へゝこら。酒分間ゝもあのやまう「さ
やうゝバ廿八日。ゝこれ多度あるさるゝ。お目ふ
かつゝ来りゝこのがまづお願ひ。陽和ど間が
文「まづゝ間があるであらう。日でも美ハ
やうたまの「さやうゝまづ〳〵ふつゝ
でござりまうゝ。早く出るゝを。ゝ人ゝも

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用

中間ときあらくばの四郎つくまうと。敵を送り
あるじうがところ。いろゝる梅の裡るりや。外こうり量つ為
べきるゝ。さても菊の井のお菊ハ風ゝも文
ゝ紙仕けゝ。緯の稍をりのがれば。文ゝとも
貞操を浄く感じとるゝと屋きこ情のこゝぞふ
徒ひ。おるが父ゝ一点あゝ。世ふ情りき人
なりと心の裡ふよろこびて。世ふがいくまふく。
ある荘へいろつ。奚ゝ居りて伺られと仕へ

やふけのとゝれ。翠とるこ川るその内るも。ふ七ハ
いゝふるゝゝろけん。そまを密れて知ゝといゝ。おるが
ゝきゝ我梅ふ引ゝゝべてハなるゝふ男ひやゝるく其
るゝふ孟子のるもあゝまるふ。おるひ知ゝぬ日迷
もなく。明ゝゝ歌く潤ゝバ。神ふつゝみて人目のゝ
きゝゝね菊ふ歌待しゝり九月も中ゝまつゝ文ゝ
しゝまが来りゝく。その荘へ物沼つゝ。お菊をつれゝ
帰るゝになん。お菊ハいまゝざそのゝゝを知ゝべ。るゝハ

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682
ガラス使用

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用

見もあれ聚あれ人の。やゆく〳〵ゑんと思ふ〳〵。
傾く移毛ふ立う人まバ。文をまハ家ふうう。菊
を近くうち招きて 文「そゝをを問〳〵ばれてう〳〵。
アノ荘人ものとのも。時節のいろを待やでやぐ。
だん〳〵人の場所ばバ。アノ小七もとの間ゆく内へ
立うつて。親も勘当許〳〵と。汐法を使のよう
人をこのこ。はく〳〵そのことの例をしと。こ〳〵が家ふ
おくまといふ。ことを言〳〵〳〵小七ハ勿論ふ人も大きふ

教んで。イヤハヤこ〳〵ふ〳〵世間萬事量の測を尽して礼
をいつて。ぶつぶつ迎ものお世話庫アノ家第ふ元領
城郭ハどうつ勝越まて。美ハつてハ居ましけれど。
ぶふ一ト〳〵びぶふや〳〵ことを。お仕けるそうと命の
おや。ぶつぶつまへの娘ふ。こ〳〵いうちふ日を擇ま。
妻れての小七ふ嫁ふ。送つく長ろと遠ての情
ハアアこまハ。ふり〳〵ろふ。るるやど死んざを仕けと
こ〳〵。妻ひ妻子もるるき男のう人。世ふ儒全き貞節

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用

の恐女をうつくしとするハ愚へてもなき仕業
なれバ。おなじく此方ハ彼方ハ彼方しとゝ外へ出ぬ
ぞ。此方ハ於てハ彼も別さぞ〳〵ぬと挨拶。
さて、そなたこを迎ひに来たのご見うそなたこの
ひまぐるしゝ。ほんに。そふしてさき
山ぶ方へ来れての花嫁女と言ふて親類辛苦
ちこんなくしも一時ふれ差しのみつも遣まる
時節。どへ〜やトのべ菊ハ拵び「何〳〵ふ

まぐ〳〵。どへ〳〵ぶ屋でのお世話小さる
も勘兵衛ぶ汗出へ拭ふるされ。とゝ言ふ
ふを見ぶ。嬉しうぐ〳〵。おのぐんあるこの
見ふ。すこふ言さるのあるしやる所ふ
をそなたどすぐ。あるぐこ。とも嬉しとゝ言
言れぬ変ぐ〳〵。此ことだろりハあのるトゝ
あぐ〳〵ぶ書ぐれ 文「そなたハまこぶ
ぶ〳〵。まこ〳〵ぶ。ふるる。変〳〵ふ
ふを親ふ。

姫子を家のうちへ世話ぐあらうと思ひ付くこれを聞
むのうきく「いへく」そまへ勿体なれ今後お詫け
下さいと。あるうとのことをうまうまうぞのやうなお世話
ありともこたへこしがまをおもしませう「そん
なうるぜ此ひ浮しと呆れとらうしやる勤の
時うう万人の中で寵を取くしうる。ゆとといひ稚子
まで。然けと寵へ表れ。嫉み沙のうが吾といふハ。
その中智まも似あハぬ河。くまと代官邪魔が楽

をすうでであらうとのうきく「いへくさうでハぐう
やせぬ。容子を見ハ嫉まうとうが。邪魔とのハ遠ざかハ
なううことやもとてとるれバ文「サテそまでぐハまうこあ
でる。墨ありうくつとハるの管ぐやが。吾といふのハ金
あるぬ「るうるぐまハあうしやるもあり私とそ三
年中で。ゆ長屋さるのお世話ふるり。アノ別長屋
やうくまバ。るんのそまを厨ひます。なれぐまあ
なうとのうとなりまくて表れてのゆもさるが。嫁み

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682
ガラス使用

なるのハ。文「ふく丈夫とといふのハ。アく嬉しくてこわ七あハ。おるそしとあるくく結髪。孔雀の親の洋〳〵妻がある。のハそのハるる〳〵ねといふのの。きく「ハイまことあるるこハよく見ぞんじ。文「ヲく知〳〵のぐどふ〳〵きまさう。此間ゆうべ陽うく。其駕もあるうまく〳〵ぶ。おるおハ小七並尋ねるとそ。いく〳〵ざる女の探ごそ。身のるど知〳〵ね旅路ふ神妙とてく〳〵死ぐ。おやうくと。嬉ふ知〳〵せこものがあるト。聞くあるの園ぶ殺然と。きく「ヤそこで

どざうナるる。さそく〳〵数〳〵のその女児位あるこハいく〳〵ざる探ごそと。おるしやうけれど女の身で良人の行方を探さうこハ。並〳〵この人の苦労ごハ。どざりまこハやうに。どふしたこ死るれこ物ごやせう。路も知れぬい旅く。是さ宝さの苦〳〵ふ物ハおるん〳〵その時〳〵ハアノ菊の井ぶるのるく〳〵ば。良人も勘當禁〳〵是ご。アく今ごろハ二個〳〵く。中〳〵人善〳〵居ようもの。その物騒ふ孔雀ねく。

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用

金をおろしひるされしことだろう。連そこの男さまでこの世
をうふ。憂銀紙をする夏よりと。さぞや客をおれこ
と。恨めしいとも思しいとも。おやーめーーこでござん
せう。そのしと後ふ又るしもやらをハよくくく薬くの
ま婦の涙。ことくく既ふて妻お側く寝こ
も幾夜。そまでも別れこその時へ死んでは仕
まつが嬉うくんと。質屋を拵らこと拵のこと。こぐ
結号くとだろうと。終ふ一夜の涙外めるきくね

あ男でまるどまで。良人をおりへおとろ根。義
ぎのお男やトひれ伏くと。ろうとだろうケふ体く
泣ひ。傷ふ聞居る文こを。涙じをすれどこぐ子
のう人思ハぢ堰来る涙をバ。傷をひきくおく拭
ひ。知ひよ絞らを恨晴一ッ文「ヤレくく男涙ふ
よまみを。モウくよくふさろくやまヨ。でその女
へ義理立てく。ろとりつるくまでころくこ既ふ死
んぢおれバ。りつぢ其方ハ後妻じや其ろうと

あハその女房紙。ふびんとおもひつくそろうこぶ一生。
よく坊吊ひしてやるぞ。弱つこ人の志まごころ
ぞり氣づ海んぞ。モウ間もあれ見限なり今
うそそ〜安択湯度丈度を世ばハ関ふあ
まのトいつこお薬もおあぐるを。ふびんなるもとハ
男へども。既ふ死〜こる上うこハ又いうんも注
方なし。美年の心頼一時も怪れ。小七ばかえ
腐入する。症〜さもまさこ十信〜と。何ぐれとあく

潤ふ。ふどふ何ら忙ばく〜く。甚ふ未出ふ。
独ぶりて是歩ころびいそぐもそぐふ丈度花は
潤ふ〜こり。すやくもその日ふなり〜こ。紙ばぐれ
より起ばく人を雇ひつ乃具をたぶ。文〜こをハ
お薬ひつひ 文「やら〜今日ハ天氣もよう〜。ばぐく
大きこめぐこのこ〜ぐや。そこの毒こる操ぐ〜紙。
女を図〜ぐ女児こ〜て。その名も変へ〜稼渡金。
婚こする矣ハ名月ふろこく。ア上るかき僥倖ぐや。

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682
ガラス使用

かさん及びるば。どうぞ使ふ夫ある浅瀬もあるといふが。
元
ぞくも見ハおりつとだろうでる。るう〳〵ふの届うねる。
あるとがマアあるうれ家へ聴ゆるふして程でハなし。ノウ
きく
お菊縁さん夫ばハ不肖しやれよい人の嫁入みハ。
しもべ
種くさのぐの紀氣あると。ゆてるもあつとれど。
年ぐ書りてハ皆ふ手れる。ぞぐ具の尽夫ハて何ふ。
一番が臭ふて。臭の教ハ三百六十。つぐいく杠
すハふ年しのも持ふ二番ふハ御厨子ふ家形三

番ハ荷擔の唐櫃。四ぐんハ長櫃六ぐんハ屏風
の箱。七ぐんハ初茶なりとの外ふ囲ゆ長枝樹の
箱ふ沈の和元絵の箱火之の香爐。硯文臺茶の
和。蓋ふの重ハ油つぐ。白粉の箱。櫛の盆ア何ふ
紙屋ふ見ハ寸法のあるものそのぐやぐ挿もう櫛
。ふれ。ふれ。ふれ

ふもいつこ通り。十万錢を費して女郎を買ひとれば
駄ハあれど一万錢をうけく女の子をおしむる駄ハ
すくなのことなれども至極尤理なる事にして今そのことを
ぶつふ。おそつんれバよりぶ上みもやすいやうと男の
かつ。年さうの癖として書くものと此一封何や
うぐ落分く。陽ぶあつこうの封をとき開つこうよくく
ろく下されるんのいうざるやうれど女の子の教
ぶき男の出るまく書つけこハ反古同然の長文ぐん。

うるうこぶ見をつんこさもも。良人大切新くぶ大ものを
賜こて世の中を暁こるを世まつのぐこトこさせぐ
これをいうぐきて きくこぶんくくのあひれ。あるとぐこう
ぐん〜ぶ。筆は今見ハ時母ふ。もちうこ筆答
うこ。弱墨やもおひづうひ。やここその上ふ書ひ蓋。
白き小袖ふ紬帽子を羽織ぶ駄ーふ月の上でふ分
体るふ石どありぐ死ふ。おひもちひ抱ばーこの
一封ハ女の子を守る工夫をとおつーやれバぐよして

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682
ガラス使用

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用

孫墨ホぞんじませう。さて今どこで被のこと。
ぞんじやすれども勇ましかるひやうに。なく傾の開く
るいおちつきまうすと其うぐ。ゆるくたいけんの
やまう　文「ヲそのとも今こで其よるゆをつくく
居てハ。ゆそそ居るうしれぬと。サノく早く寄ゆ。
ゆまと。いられくさる法立けのことゆ代のたゆ
ぞと。ようゆ。きくゆ雪の眉花の蟹愛敬ハ陸ゆく
だろうこれぞ。これ。ようの蓮葉宮裡の仙女ゆあるずハ。

ようこのげつう月下の神仙なるうんと。助のだろうの形容「ヲ文
よくはまるゆが出来と斯しとゆるとゆるぐ年ぐ。二ッ
三ッも下ゆ。ゆるるるゆるゆ女ハ他ゆうぐ行ゆ手ゆ
雇つと男ぎるく来る時ぶんしやトいゆるぐうゆ
まぐゆるゆど年といひ。その面形も。アノ。ゆ去めぐ
居ゆるるう。斯しと。ゆハゆるうゆの美しの中ゆ
人とゆう。伊達る衣裳もいろとゆるく。十七八ゆん
いろくと。苦労だろうしと上ぐ。ようく。紀命ゆ

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682
ガラス使用

終るといのハどのしと同家とあきてもいめぐ
いづる文をもの程の苦しさハ扨るき業ゆと尽
されぬ看官さうしゆのべしうくて樽酒屋の方ハ
ても今日ハ新婦ハの裏入なれと扨ぬ死より
家内の男女上を下へと騒いしき小七ものつぞや旅
宿あひうんしゆ見ハ自も高でいと浅きき癖
るりしが今ハ人なるくハ。るりしと安ばを行きらこ
でんの内の貞操を思ひたられバ侵さも八入ハ

まりといとぐしく。おらぬ婦のあどを感じ今日より
後ハ今やもの苦ハ引うくく帰ると世るきせと
男ひつく心の虜ハ腹るとるく紋よものうち院の梯
除家の帰りも仔細と。ハ閑しき秋のすゑ縫き
日新も今ハ夫東人ときとろるるかられ
ぞ波おハ一ツハ仏ぐ行方をめんぐ。一ツハ小七ぐ
飯り来くいまく今日ハ右をも逆るなりと変
うこに好き婦しき思と交く一ト間の程ハ引とみ

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用

居くそのあとを連るるに。招るるに入るる孤子菊
すく新婦家の主のひねくと。少奴あり主人ざうねて
勢しる侍女藤ハとまとを迎へく輪うりの。彼の
自侵の自ゆ独間子添くもるるしうとしうべ清く
面ゆうるるようしうく。てをうりて奥ゆ入り。ぎうく其ゆ
ゆ甜ハするふたや潤る院の体。いざこそこれを使ひ
つゆ出ハうをを賜ひうの。ふきゆ少独くよりて。ゆ目る
なる親子の小主人。並居る傍く座敷あるうる。彼

で移るる女も来りつ彼ゆ源がうとうちく古例の
ぢく三くの数も満るる主ゆ。いざこそこれ子金ゆ
つまこのき間子をまぢくとハいりゆ。おまりゆあくで菊
の井ゆり。さくハとぢくり縁るき果。少七親子ゆ告る
ゆるん。小主人ハ悔くく孤ゆりつんれば。お菊ゆ絡れ
なり。間つうの主ゆ怪敬しと。小主人「やくそうくく菊
じゃうりうせん演迷くく文のゆうぢ。うんでるぢゆ
遠ひるるのと。ゆ慰勢くく居つく。年長ゆるるいと

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682
ガラス使用

るんぢが。夫ぞう。此世ふ男ひを迷ひ。今見聞きを
殺が婚姻。そまを。ひんで。おるが。男ふつき。落つて
そのやうに。面まで。そちが。面影ふ。ほ〳〵ろ〳〵て
ちかく〳〵。きを。探しと。男のわる。ちうねきそちが
仇根じやり〳〵。亡念の。凝うとやうと。化めるるば。早
く。ちきれ。南ぞ。阿弥陀佛〳〵と。唱へら。ちきく。菊の
井ぢ。るんとの。ちの。沢ちうねば。拵ちとして。守ち
居る。少しも。見ちんく。怪ぢ。イヤ。恐ちぬ。ちの

菊の井。るんでも。左ちうる。変化でば。どちらち。ちの。
ちろ。容ちみ。ありげるる。でどれば。ろ〳〵ろうる。の
沢ぢト。ひれて。菊の井。探ち〳〵ふ。審ちれねばあり。
次ち。洞ち〳〵。物ぢと。見ば。ふ。ちの。ハ。ち。屬ち。頭ち
ち。「ちよ〳〵ちれば。ち。方ぢ。危ち。ぢられ。ば。ぢ。
ち。ど。ぢん。
爺ち。文ち。ぢの。ふ。ぢ。見ち。ち。
ぢ〳〵。ち。ひの。越ち。れ。ぢ。ち。ふ。ち。ハ。ち。ぢ。ち。
方。ち。れねど。ちと。ち。ち。ん。ず。討ち。ひ。

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682
ガラス使用

それをあと見へ[illegible]をとゞめ[illegible]その時[illegible]
対面せざるよ〳〵[illegible]ひなるべし。[illegible]
身の上[illegible]喜三郎あらぬ方まで[illegible]細[illegible]
きれ[illegible]どもの[illegible]のゆゑとて[illegible]
せば。ふ七ハ歴妻時鼠[illegible]と[illegible]「祝ふ冥途へ往[illegible]」思
ひ〳〵入ハ今とゝふ正〳〵[illegible]
濃[illegible]の[illegible]
の家へ[illegible]居[illegible]測[illegible]余

[illegible]ありト[illegible]父子を菊の井[illegible]
[illegible]紙[illegible]
刑の書[illegible]下さ[illegible]
[illegible]
[illegible]ト[illegible]
[illegible]

菊の井草紙巻之十一終

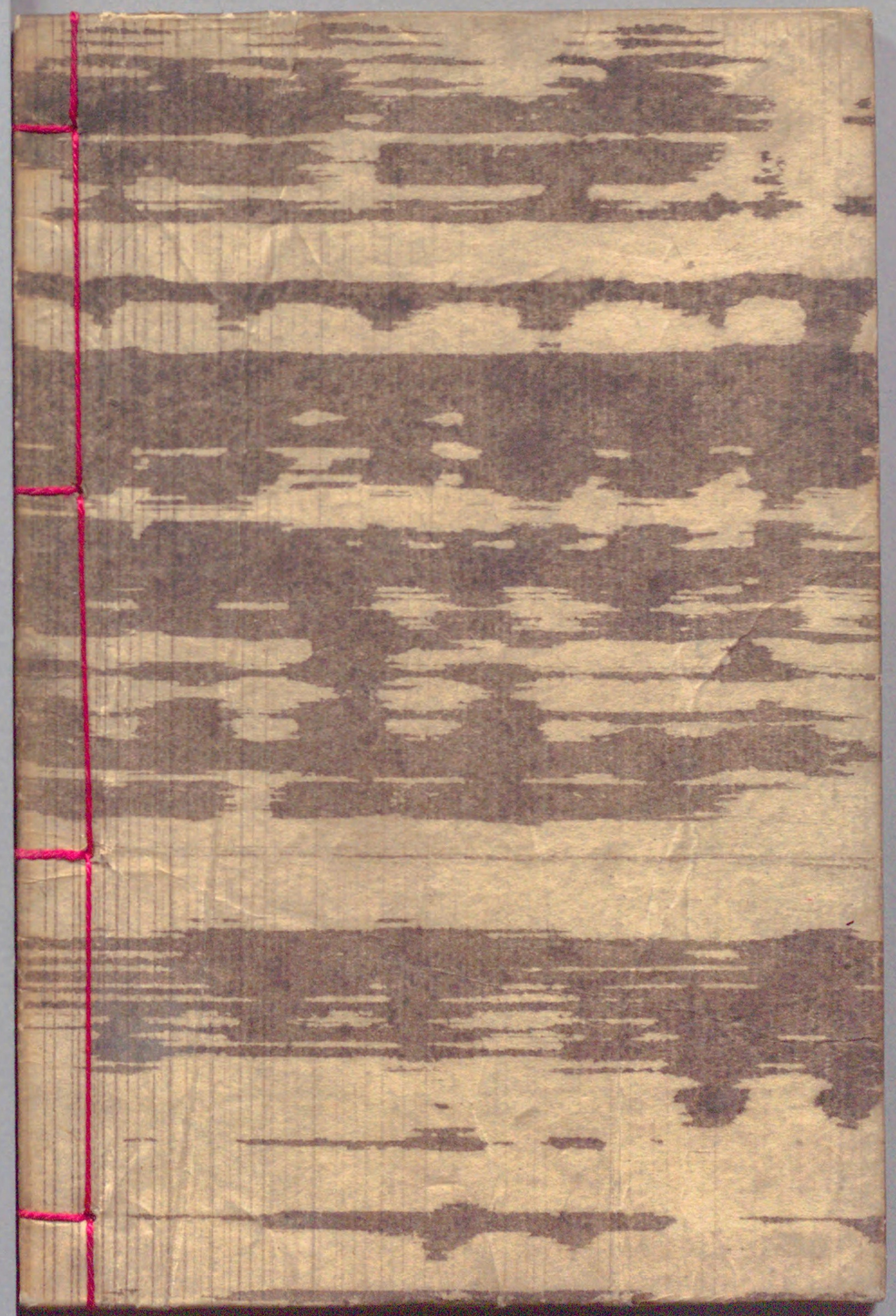
国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用

208
12
682

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用



国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用